

PBF 定期通信 no.9

2025 年 10 月 16 日発行

Practical Biosafety Forum : 生物安全実践講習会

発信元 : (一財)機能水研究振興財団 / (公財)ルイ・パストゥール医学研究センター
生物安全実践講習会 専門委員会 編集担当 堀田国元・中藤誉子

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-20-8 Tel: 03-5435-8501, Fax: 03-5435-8522

E-mail: kinousui-zaidan@fwf.or.jp

ホームページ: <https://kinousui-zaidan.wixsite.com/seibutuanzen>

2025 年度 年間スケジュール

2 月 25～26 日

第 7 回 実践コース B

北里環境科学センター(神奈川県)

● Topics ●

生物安全関連情報 :	WHO 厚労省 関連情報	p2
講習会案内	第 7 回実践コース B	p4

【お知らせ】

生物安全実践講習会のホームページアドレスが変更となりました。

新 URL: <https://kinousui-zaidan.wixsite.com/seibutuanzen>

お気に入りやブックマークにご登録されている場合は、新しい URL への変更をお願いいたします。

(旧 URL は 404 エラー表示となります)

資格認定制度「生物安全技能取得者」へ呼称が変更となりました。

使用しておりました呼称「生物安全技能士」が、職業能力開発促進法第 50 条(合格者の名称)に抵触する恐れがあるとのご指摘を、厚生労働省人材開発統括官能力評価担当参事官室から頂いており、専門委員会、運営委員会にて呼称の検討を重ね、新呼称「生物安全技能取得者」が決定したところでございます。名刺、メール署名等に「生物安全技能士」をご使用の場合、「生物安全技能取得者」へご変更いただけますようお願い申し上げます。

講習会広報用動画のご案内

第 3 回実践コース B 開催時に撮影した動画を 5 分間のダイジェストにまとめた動画を講習会ホームページへ掲載しております。ご所属の同僚の方々のほか、関係する方々へも是非ご紹介ください。



【生物安全関連情報】

◎ WHO 「Global antibiotic resistance surveillance report 2025」 2025 年 10 月 13 日発表

<https://www.who.int/publications/i/item/9789240116337>

この報告書は、世界の多数の国から得られた 2300 万件以上の確定細菌感染症データを基に、耐性の有病率および傾向を分析しています。本報告では、93 種類の「感染タイプ-病原体-抗生物質」組み合わせを、2023 年時点のグローバルおよび地域ごとの推定値として提示し、世界全体で「実験室で確認された細菌感染症」のうちおよそ 16~17% が抗生物質耐性を示していると報告されています。Global Antimicrobial Resistance and Use Surveillance System への参加国数は、2016 年の 25 か国から 2023 年には 104 か国に増加していますが、2023 年時点でも報告を行っていない国が約 48% 存在しており、各国において、質の高い AMR データを GLASS に報告する体制を 2030 年までに整備することが提言されています。

◎ コンゴ民主共和国におけるエボラ出血熱のアウトブレイク

<https://www.afro.who.int/news/last-ebola-patient-democratic-republic-congo-discharged>

最後の患者が回復し退院したため、アウトブレイク終息宣言に向けた 42 日間のカウントダウンが開始されました。2025 年 9 月 4 日の発生宣言以来、合計 64 症例（確定 53 件、可能性が高い 11 件）が報告され、これまでに 19 人が回復しています。地方でインフラが限られるという課題があったものの、保健省と WHO およびパートナーが迅速に対応。強力なパートナーシップと国の専門知識が鍵となりました。新規症例がなければ、2025 年 12 月上旬に終息が宣言される予定です。

◎ 西太平洋地域事務局 (WHO Western Pacific Regional Office) 日本の風しん排除認定

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_63996.html

我が国においては、「風しんの排除を達成する」ことを目標とし、令和元年度から風しんの追加的対策を実施するなど、風しんの排除に向けた取組を進めてきました。また、我が国では、公衆衛生、疫学、ウイルス学、臨床医学等の専門的知見を有する専門家による麻しん・風しん排除認定会議を設置しており、当該会議で、「麻しん・風しん排除に関する年次報告書」を作成し、WHO 西太平洋地域麻しん風しん排除認定委員会に報告書を提出してきました。今般、当該委員会での検討の結果を受けて、世界保健機関西太平洋地域事務局は、日本が新たに風しんの排除状態にあることを認定しました。

◎ 感染症エクスプレス @厚労省

◆新型コロナウイルスについて(<https://www.mhlw.go.jp/content/001580214.pdf>)

2025 年第 41 週 (10/6 日~10/12) における定点当たり報告数は、3.72 (報告数 14,303 件)

◆インフルエンザウイルスについて(<https://www.mhlw.go.jp/content/001580118.pdf>)

2025 年第 41 週 (10/6 日~10/12) における定点当たり報告数は、2.36 (報告数 9,074 件)

◎ NHK ONE 感染症データと医療・健康情報

<https://news.web.nhk/news/special/infection/dashboard/>

約 20 種類の感染症について全国の感染者数推移や都道府県ごとの感染者数をお伝えしています。

◎ 厚生労働省 ワンヘルス・アプローチに基づく人獣共通感染症対策

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000172990.html>

動物から人へ、人から動物へ伝播可能な感染症（人獣共通感染症）は、すべての感染症のうち約半数を占めています。また、抗菌薬の不適切な使用を背景とした人、動物、食品、環境等における薬剤耐性（AMR）を持つ細菌の出現が、国際社会で大きな課題となっています。

人獣共通感染症に関する関係省庁間の連携（ワンヘルス・アプローチ）

平 時 の 対 応	環境省 (主に環境、野生動物)	厚生労働省 (ヒト)	農林水産省 (主に畜産動物)
	鳥インフルエンザ（野鳥）調査	【発生状況・保有状況の把握】 - ヒトの疾病発生・動物の病原体保有の医師・獣医師からの届出（感染症法） - 厚労科研やAMED研究等による調査研究（人獣共通感染症含む）の実施	- 家畜・家さん疾病の発生状況の把握（家畜伝染病予防法） - 家畜疾病（人獣共通感染症含む）の研究の実施
	- 動物販売業者の飼養衛生管理 - 犬・猫のMC登録（動物愛護管理法） - 温暖化対策 - 野生動物の保護管理	【感染源対策】 - 感染源（ダニ・蚊・ネズミ等）の駆除・消毒等（感染症法） - 犬の狂犬病ワクチン接種や市町村への登録の義務化（狂犬病予防法） - と畜検査や食品衛生対策の実施（と畜場法等）	家畜・家さんの飼養衛生管理の推進（家畜伝染病予防法）
	- 販売業者への周知・情報提供 - 動物の所有者や一般への周知	【動物所有者や関係者への周知】 - HP、ポスター、シンポジウムの開催などを通じた国民や関係者に対する普及啓発 - 販売者等関係者への専門的なガイドラインの普及	畜産農家等関係者への周知・情報提供
		【輸入・検疫】 - ペット用サル、コウモリ、タヌキ、ハクビシン等の輸入禁止（感染症法） - 輸入動物の衛生証明書の確認（感染症法） - 輸出国のサル飼育施設の現地調査（感染症法）	- 犬等の輸出入検疫（狂犬病予防法） - 試験研究又は展示用サルの輸入検疫（感染症法） - 家畜・家さん・畜産物の輸出入検疫（家畜伝染病予防法）
緊急時の省庁間連携（例：省庁間連絡会議（高病原性鳥インフルエンザ等）の開催）			

犬猫由来の主な感染症

最も人に身近なペットである犬や猫も動物由来感染症の病原体を持っています。触ふれ合うときには注意が必要です。

パスツレラ症：犬や猫等の動物の気道や口の中に普通に見られる細菌で、主に動物に咬まれて感染するが、飛沫を介した経気道感染もある。

猫ひっかき病：原因菌は猫の赤血球内に存在する。保菌した猫に、咬まれたり、ひっかかれたりして、皮膚から直接感染する。まれに保菌猫を吸血したネコノミから感染することがある。特に子猫の保菌率が高く、保菌猫も患者も西日本に多い。

カプノサイトファーガ感染症：犬や猫の口の中に普通に見られる細菌で、主に咬傷・かき傷から感染するが、傷口をなめられて感染することもある。

コリネバクテリウム・ウルセランス感染症：本菌に感染した犬や猫との接触や飛沫により感染する。

トキソプラズマ症：猫はトキソプラズマの終宿主で糞便中にオーシストを排出する。人は猫が排出したオーシストを直接または土いじりなどを介して間接的に経口摂取して感染する。

その他；ブルセラ症、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）など

動物由来感染症ハンドブック 2025 <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001418129.pdf>



～病原微生物の取扱い・管理者のための公益事業～

生物安全実践講習会

第7回 実践コースB

(公財)ルイ・パストゥール医学研究センター・(一財)機能水研究振興財団・(一財)北里環境科学センター 共催

日程： 令和8年 2月25・26日(水・木) 2日間(両日9:00～17:00)

会場： (一財)北里環境科学センター／北里大学 L2号館

[アクセス] JR相模原駅・小田急線相模大野駅よりバスで約30分

内容： **病原微生物の取扱い・管理のために必要な法令を含めた
先進的知識と技術に関する座学と実習**

受講料： 1名 35,000円 (定員24名;座学および実習テキスト事前配布)

申込方法： 生物安全実践講習会ホームページの「開催案内」より

< <https://kinousui-zaidan.wixsite.com/seibutuanzen> >

問い合わせ先： (一財)機能水研究振興財団内 生物安全実践講習会事務局 (pbf@fwf.or.jp)



【予定座学・実習】 ※HPにダイジェスト動画掲載中

	区分	題目	座学講師・実習指導者	
座学	ガイダンス	講習会概要	堀田 国元	機能水研究振興財団 理事長
	座学1	感染制御概論Ⅰ	高山 陽子	北里大学医学部 教授
	座学2	感染制御概論Ⅱ-ウイルス-	久保 誠	北里大学医療衛生学部 教授
	座学3	病原体の消毒・殺菌および滅菌	堀田 国元	元国立感染症研究所生物活性物質部 室長
	座学4	One Health から見た薬剤耐性菌の現状と課題	田村 豊	酪農学園大学 名誉教授
	座学5	医薬品製造における安全対策とGMP	佐々木 次雄	元国立感染症研究所細菌第二部 室長
	座学6	遺伝子組換え生物等の利用と安全対策	辻井 栄作	京都大学研究推進部研究規範マネジメント室
	座学7	遺伝子関連検査と安全対策	林 邦彦	(株)池田理化 / PCR感染症検査研究会
実習	特別講演	パンデミックは再びあるか —新興再興感染症への日頃からの備え—	岡部 信彦	川崎市健康安全研究所 参与
	実習1	衛生的手洗い	恒川 良太郎	ニプロ (株)
	実習2	个人防护具 (PPE) の着脱	山本 俊介	アゼアス(株)
	実習3	病原体の輸送 (梱包・開梱) および 漏洩時の対応	伊木 繁雄 鹿住 祐子 霜島 正浩	国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 元結核予防会結核研究所抗酸菌部結核菌情報科 (株)スギヤマゲン
	実習4	遺伝子関連検査の基本操作と安全対策	林 邦彦	(株)池田理化 / PCR感染症検査研究会
	実習5	安全キャビネットの構造・機能・管理	関口 勝美	(株)アルバーネット代表

<これまでの受講生の声>

講習会満足度

